

## 図書館 オープンコモンズの活用状況

図書館運営委員会

藤原 隆、大野泰子、若狭美乃里

オープンコモンズは、2016年3月に「学生・教職員と住民のみんなが学び合い、地域の健康教育を目指す場」として設置され、5年経った。この間、各種のセミナーや実習、模擬授業、学部や大学院の講義、各種委員会の会議、学外の人を対象としたエキスパート養成プログラム、小学校児童の見学、市立呉高校の模擬授業など、様々な目的のために活用されてきた。

### オープンコモンズ活用状況

2016年から2020年までの過去5年間の活用状況の推移（表1および図1）を見ると、17年度は16年度に比べ利用回数は40.0%、利用人数は16.0%増加した。この増加は、4年生が国試の学修に利用できるようになったからと思われる。18年度は、17年度に比べ、利用回数は15.3%、利用人数は28.8%減少した。減少の理由は、18年7月の西日本豪雨災害により、休学や短縮授業が余儀なくされたためであることは間違いない。19年度は、18年度に比べ利用回数は0.8%減少したものの、利用人数は16.6%の増加となった。これは、養護コースや高校教諭コースを履修している学生の教育実習の模擬授業に大勢の高校生が出席したためであろう。しかし、利用人数が増加したとはいえ17年度のピーク時には及ばなかった。さらに、20年度は、年度当初から新型コロナウイルスのパンデミックにより、遠隔授業となることが多く、学生が登校しない日が多かった。また登校しても図書館を含む大学の施設利用は時間短縮されたり、利用制限されることも少なくなかった。このようなことから、20年度のオープンコモンズの利用は125回、674人で、19年より回数は0.8%の減にとどまったが、利用者数は30.4%の大幅な減少となった。

### 感染防御対策

看護学部の学生は、看護学実習や教育実習のため市町村にある病院や学校に出入りする中で、学生が図書館で新型コロナ感染症のキャリアーになり、病院や学校にウイルスを持ち込むようなことは絶対にあってはならない。このためオープンコモンズの利用に際してもできる限りの感染防止策を講じた。オープンコモンズの入口でもある図書館の入口には手指消毒用の次亜塩素酸の消毒器を設置し（図2）、オープンコモンズ内の机には密を避けるため、座ることができる机と座ることができない机を指定し、座ることができない机に「使用禁止」のステッカーを貼った（図3）。また椅子は移動禁止とした（図4）。机と椅子を使用した後は、使用者が消毒するように消毒液やティッシュを置いた（図5）。さらにオープンコモンズへの通路となっている閲覧室においては、6人掛けの机の椅子2脚を取り除き4人掛けとし、座席の間に衝立を設置した（図6）。机は、毎日、職員が閉館の前に消毒液で消毒した。図7はオープンコモンズでの遠隔会議の様子である。出席者は間隔をとって座っている。

## オープンコモンズの今後

この数年間は、自然災害やパンデミックに見舞われ、平穏な日常が奪われ続けてきた。現在もまだその渦中にある。今後はできるだけ早く学びの場に平穏な日常が戻り、オープンコモンズのある図書館でゆったりと学修や思索ができる日々が訪れることを切に望みたい。

表1 オープンコモンズの活用状況

年度	利用	利用回数(前年比)	利用人数(前年比)	備考
2016年(H28)		108	1008	オープンコモンズ設置
2017年(H29)		150 (+38.9%)	1167 (+15.8%)	4年生利用可
2018年(H30)		127 (-15.3%)	830 (-28.9%)	西日本豪雨災害
2019年(H31)		126 (-0.8%)	968 (+16.6%)	
2020年(R2)		125 (-0.8%)	674 (-30.4%)	コロナ禍

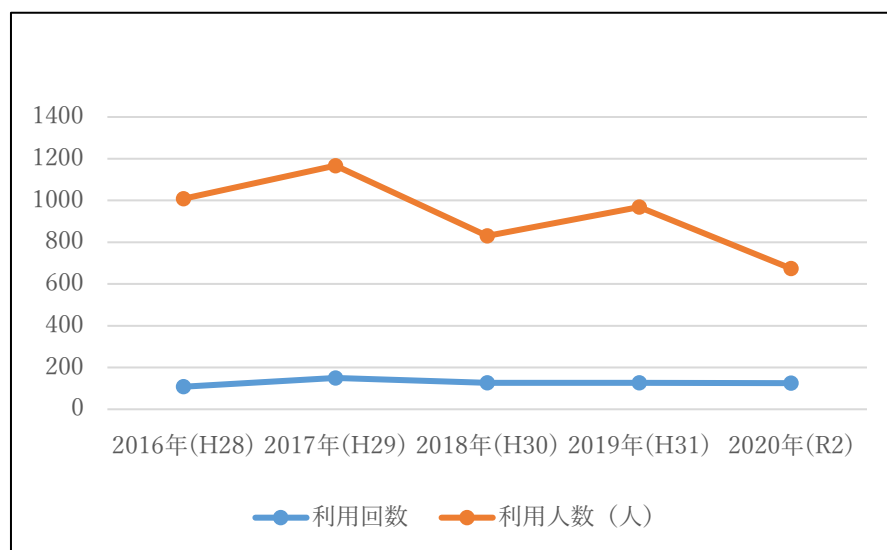


図1 オープンコモンズの活用状況



図2 入口消毒器



図3 「使用禁止」ステッカーを机に貼り、席を間引いた様子

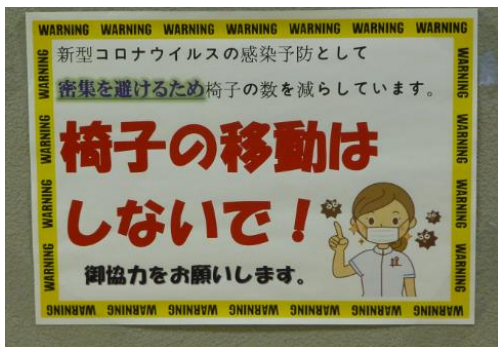


図4 壁に貼った注意喚起ポスター



図5 消毒用具入れ



図6 閲覧室 衝立で仕切られている



図7 オープンコモンズでの遠隔会議の様子